

網膜対応検査④ (Fundus haploscope の検査)



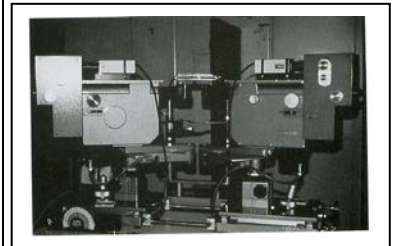
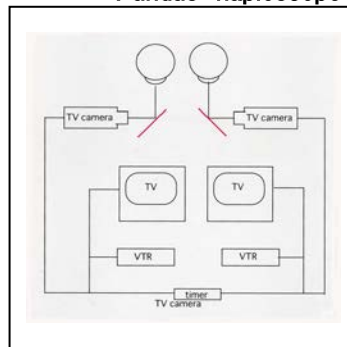
目的

赤外線テレビカメラによって被検者の眼底を観察することによる、視標と網膜部位との関係の正確な把握

参考) 日本視能訓練士協会誌 第20巻 P76~83 眼科器械の使い方第2版 P131~137

準備物 fundus haploscope 分離方法 赤外線テレビカメラ2台(異質図形) 検査方法 F 対 F

Fundus haploscope の概略配置図

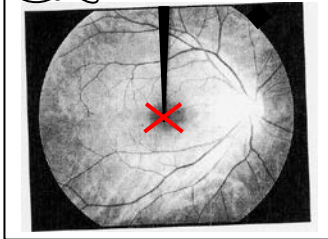


目でみる両眼視機能検査の進めかた P78 図VI-17

被検者の固視眼に視標(例: ×)を見せ、ブラウン管に被検者の眼底の中心窩と視標が重なっているかを確認する



回旋偏位もわかるよ!



眼科検査法ハンドブック第3版 P91 に加筆

屈折矯正をする必要はない。

他眼に別の移動視標(例: ○)を見せ、被検者の返答をたよりに自覚的に網膜対応点まで近づける

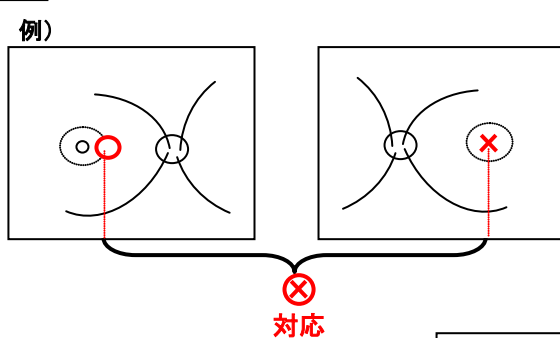


眼科検査法ハンドブック第3版 P91 に加筆

重なる

近づけてゆくと消える

同時視が得られず交代する



抑制領域の測定から道づれ点を把握し、jump 点があれば確認する

この視標の網膜上の位置が対応部位

一眼の中心窩と他眼の中心窩で対応する

一眼の中心窩と他眼は中心窩以外で対応する

正常網膜対応

非正常網膜対応(対応の異常)



欠点

- ・画角が狭い。
- ・PD が狭いと(50mm 以下)検査不可能。

例) 他眼の対応部位が中心窩に近い!



網膜での他覚的斜視角度の位置(道連れ領)の把握が難しいのでこの2つの判定になるのかな?



中心窩に近いということは大型弱視鏡の目盛0°に近いという意味ではなく、OAに近いということだから注意!

微小異常対応 Micro-ARC /small angle ARC
又は subnormal retinal correspondence (SNRC)



大きな視標では NRC と判定され、両眼視機能としては運動性融像、大まかな立体視を持っている。この検査でないとなかなか検出は出来ないとのこと。